

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 飛幡 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 数学 | | 理科 |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均IRTスコア |
| 本市 | 7.4 | 53 | 6.7 | 45 | 492 |
| 全国 | 7.6 | 54 | 7.2 | 48 | 503 |

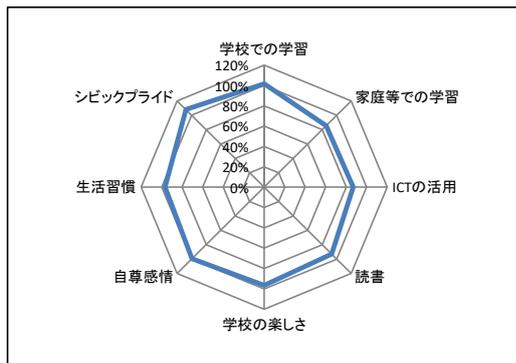
(2) 本校の学力調査結果の分析

| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの内容においても全国平均正答率を上回る状況である。読書習慣の定着や毎日の学習プリント実施の定着が結果に結び付いていると考えられる。 | 全国平均正答率との比較 |
|----|-------------|---|-------------|
| | よくできた問題 | 3二 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く | |
| | 努力が必要な問題 | 3四 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く | |

| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 「数と式」と「図形」においての問題で全国平均正答率を下回っている。「関数」と「データの活用」の問題に関しては、全国平均正答率を上回っている。中層からやや下回る割合が目立ち、2極化が見られ、基礎学力が定着していないと考えられる生徒がいる。 | 全国平均正答率との比較 |
|----|-------------|--|-------------|
| | よくできた問題 | 7（1）Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く | |
| | 努力が必要な問題 | 6（2） $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する | |

| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均正答率を下回っているものの、「地球」を柱とする領域については全国と比較しても正答率が上回っている問題が多かった。「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域は、全国平均よりやや下回る問題が目立った。 | 全国平均正答率との比較 |
|----|-------------|---|-------------|
| | よくできた問題 | 1（6）水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する | |
| | 努力が必要な問題 | 7（1）小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

| 質問調査の結果分析 | |
|--|--|
| ・「これまで各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の質問を肯定的に回答している生徒が全国結果より上回った。また、「先生は、授業のテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」の質問を肯定的に回答している生徒も全国結果より上回っていることから、学習したことを自分の力として身に付ける動きが見て取られる。 | |
| ・「将来の夢や目標をもっている」の質問を肯定的に回答している生徒が全国結果より下回っている。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒一人一人の自己有用感等に影響を与える可能性があるため、学校全体で授業や行事改善を進め、生徒がやりがいを感じる必要がある。 | |
| ・「休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して全国結果より下回った。授業学習から家庭学習へつなぐ学習方法の工夫が必要であるとする。 | |
| ・「ICTを活用している」の質問で肯定的に回答した生徒の割合が低かった。今後もいろいろな場面で必要に応じて、ICT活用を推進する必要がある。 | |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝自習の取組の見直し。具体的には、読書の週と基礎学力定着プリント等の取組の週とに分けて、毎日、実施する必要がある。実施にあたっては、特に数学の基礎となる計算プリント学習の精選やドリルアプリの利用等課題資料を整理することが求められる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各教科の授業より家庭学習課題につなげる授業改善を行い、家庭学習時間の確保に導くよう考えていく。
・各教科や学習場面におけるICT活用率を上げるため、課題設定の工夫を行う必要がある。具体的には、ドリルアプリの利用などが考えられる。